

## は じ め に

山形県衛生研究所報の第40号記念号として、ここに平成18年度の調査研究および試験検査等の業務実績を取りまとめました。

地方分権および行財政改革の一環として、地方衛生研究所の組織・機能の見直しが全国的に進行中です。組織の見直しとしては、環境保全や環境科学等に関する研究機関との統合が目立ちますが、最近では工業や農業関係の研究機関との統合による大規模な再編もみられます。研究所の名称自体も「衛生環境研究所」や「健康安全研究センター」など、非常に多様化しております。このような状況のなか、昭和29年創設の当研究所では、現在も「衛生研究所」の名称を守りながら、約30名という少数精鋭の研究陣が、公衆衛生に関する研究と試験検査、さらには県内の保健所等の試験検査担当職員の研修等に奮闘しております。

名称が「衛生研究所」のままで変化がないからといって、決して改革に後ろ向きなのではありません。これは自治体の研究機関に共通する課題ですが、当所においても、特定の専門分野の研究に精通した「はえぬき」（これは山形県特産のコメの品種名でもある。炊きたてはもちろん、冷めても美味しいので、おにぎり用に重宝）の研究陣が今後10年以内に続々と定年退職を迎えます。はえぬき研究陣の豊かな知識と衰えることのない技術を計画的に若手職員へ傳承しながら、新しい研究課題にも積極的にチャレンジすることが求められております。

そこで当所では現在、健康危機管理をはじめ、複雑・多様化する地域保健の課題に的確に対応できる研究機関として、その存在価値を一層高めるための「中期展望」を作成中です。本書には、平成18年度から新たに取り組み始めた研究も掲載されておりますが、その一方で十年前と同じ研究課題も少なくありません。生活企画部、理化学部および微生物部の研究課題に相互の関連性が乏しい点も気になります。この中期展望の作成にあたっては、他の研究機関や県民の皆様の声も参考にしたいと考えておりますので、本書を通じて当研究所の組織・機能および研究成果をご高覧のうえ、ご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

平成19年12月

山形県衛生研究所

所 長 阿 彦 忠 之